

福知山市指定文化財図録Ⅱ(補遺版)

文化財が語る
福知山の歴史



福知山市指定文化財図録Ⅱ(補遺版)

文化財が語る

福知山の歴史

ごあいさつ

平成十八年一月、福知山市は三和町、夜久野町、大江町と合併し、これまで各町が進めてきた特徴ある文化を引き継ぎました。平成十九年の市制施行七十周年を経て、今年に合併六年目となりますが、「北近畿をリードする創造性あふれるまち」の実現を目指して今、八万二千市民の英知を結集し、まちづくりを更に発展させていきたいと考えています。

ところで、歴史と伝統、そして文化の栄えるふるさと福知山を思うとき、その源に水清い由良川、緑深い山々の姿が浮かびます。このはるか悠久の時代から続く大地と大気の中で先人は未来を信じ、その時を精一杯生きたことでしょう。その思いは今の私たちに文化財として引き継がれているのです。

未来への創造のためには、夢と誇りと自信を持ち、前を向いて歩み続けることが重要です。しかしながら時には来し方を振り返り足跡を確認することも必要なのではないでしょうか。そこに住む人々の誇りと愛着、熱意と行動力が地域の魅力を高め、新たな力を生み出すものであると考えます。歴史や文化はその思いを高める最も強いキーワードとなるものです。

新たな福知山市の誕生から五年という区切りの年を迎えるにあたり、福知山市の誇る歴史と文化を改めて見直す機会として本書を刊行しました。

本書が未来へつながる福知山の飛躍への一助となれば幸いです。

平成二十三年四月三十日

福知山市長 松山 正治

ごあいさつ

福知山市は約半世紀前の昭和三十八年に京都府下の他市に先駆けて「福知山市文化財保護に関する条例」を制定、文化財保護審議会を設置し、いち早く文化財保護行政に取り組んできました。

この間、市内各地に大切に伝えられてきた有形・無形の資料を調査して、文化財の指定を行い、歴史・文化の保全と保護を進めてきました。また、各種資料の特別展示、文化財図録、文化財マップ等の刊行を行い、市民の皆様にあふるさと福知山市の悠久の歴史を深く知っていただく機会を提供しております。

平成十八年一月、一市三町の合併によって誕生した新たな福知山市では、旧三町指定文化財を引継ぎ、総数二〇〇件を超える京都府下有数の充実した資料を得ました。

さて、昨今の世界的な構造変化により、日本の社会もこの大きなうねりの中に呑み込まれつつあります。経済性重視の中で地域の力は奪い取られ、先人が長い年月の中で培ってきた歴史や文化の魅力を急速に失わせつつあります。しかしながら、このような時にこそ、ふるさとの文化、歴史に目を向け、これらを応用・活用し、市民の皆様が文化財を身近に接する機会を創造することが重要であると考えます。観光振興や都市計画との深い連携を持てば地域に力を取りもどし、地域を活性化する核となり得るものと確信します。

本図録は前回平成六年に刊行した福知山市文化財図録を補完する補遺版として刊行するもので、主に三和町、夜久野町、大江町との合併後、新たな福知山市の遺産となった文化財を所収したものです。

文化財は先人たちが作り上げたかけがえない貴重な財産であるとともに、次世代へ受け継いでいく国民共有の財産でもあります。今後も更なる文化財の保護と活用に努めてまいりますので、何とぞ、皆様の御理解と御支援なごらびに御助言をいただきますようお願い申し上げます。

平成二十三年四月三十日

福知山市教育委員会

教育長 荒木徳尚

凡例

一、本書は、福知山市に所在する指定文化財の図録（補遺版）である。
指定文化財は、国・府・市の指定したものをすべてを含む。

二、本書に所収する指定文化財は、平成九年刊行『福知山市文化財図録「文化財が語る福知山の歴史」』に未掲載の平成九年三月三十一日以降、平成二三年三月三十一日時点までに指定された文化財、および平成一八年一月に福知山市、三和町、夜久野町、大江町による一市三町合併に伴って福知山市の指定となった文化財である。

指定文化財の件数は合計二〇六件で、内訳は巻末の指定文化財一覧のとおりである。

指定区分については、通例に従い建造物、美術工芸品、無形民俗文化財、有形民俗文化財、史跡、天然記念物に区分した。

美術工芸品は、さらに、絵画、彫刻、考古資料、工芸品、古文書、書籍・典籍に細分した。なお、過去の指定の際に石造物として指定したものがあ
るが、本書では通例に従い建造物、彫刻に分類して記載した。

巻末の指定文化財一覧の備考欄参照。

三、指定種別については、以下のとおりである。なお、（ ）書きのとおり省略する場合がある。

国指定重要文化財（国指定）	国重要美術品（国重美）
国登録有形文化財（国有形）	国登録記念物（国記念）
京都府指定文化財（府指定）	京都府登録文化財（府登録）
京都府文化財環境保全地区（府環境）	京都府選定文化的景観（府景観）
福知山市指定文化財（市指定）	福知山市重要資料（市重要）

なお、国重要美術品・府登録文化財については、一部重複して市指定文化財に指定されるものがある。

四、本書の編集については、福知山市教育委員会が行い実務を八瀬正雄が担当した。

一、図版写真については、大部分を新規に福知山市教育委員会が映像工房出水と委託契約を締結して撮影を行った。
ただし、以下の六件 49カットについては写真は借用いたしました。ここに記して感謝いたします。

- 4-1 木造阿弥陀如来坐像（大智寺）……佛教大学宗教文化ミュージアム
- 4-2 木造天部立像（大智寺）……佛教大学宗教文化ミュージアム
- 4-3 破損木造佛像群（大智寺）……佛教大学宗教文化ミュージアム
- 5-25 木造金剛力士像（観音寺）……三光堂写真館
- 6-26 丹波の漆かき（丹波漆生産組合）……丹波漆生産組合
- 6-27 丹後二俣紙（丹後二俣紙保存会）……丹後二俣紙保存会

二、「仏教美術を中心とする福知山市の文化財」については、同志社大文学部教授 井上一稔氏（福知山市文化財保護審議会委員）に特別にご寄稿いただいた。

三、図版解説については、1-1、2を小滝篤夫氏（福知山市文化財保護審議会委員）に、2-2、3-1、4-1、5-1、5-2、5-3、5-9、5-29、6-1、6-8、11を井上一稔氏（福知山市文化財保護審議会委員）に執筆いただいた。

この他については、指定調査資料と下記の文献を参考に福知山市教育委員会にて作成した。

また、京都府の指定文化財については、下記の文献アより一部を引用させていただいた。引用部分に関する、内容等に誤りのあった場合の責任は、福知山市教育委員会にある。

- ア『京都の文化財第一〜二集』京都府教育委員会一九八二〜二〇一〇
- イ『京都の美術工芸（中丹編）』（財）京都府文化財保護基金一九八一
- ウ『京都の社寺建築（中丹編）』（財）京都府文化財保護基金一九八一
- エ『福知山市の指定文化財』福知山市教育委員会一九八二
- オ『福知山市史第二巻』福知山市一九八二
- カ『福知山市史第三巻』福知山市一九八四
- キ『福知山市史料編一』福知山市一九七八
- ク『三和町史上巻（通史編）』三和町一九九五
- ケ『夜久野町史第二巻資料編』福知山市二〇〇六
- コ『大江町史通史編上巻』大江町一九八三
- サ『ふるさと三和の文化財』三和町教育委員会二〇〇五
- シ『夜久野の文化財』夜久野町教育委員会二〇〇三
- ス『大江の文化財』大江町教育委員会一九八七

◎表紙題字 福知山市長 松山正治

文化財が語る福知山の歴史

目次

ごあいさつ	市長、教育長	2
凡例		4
目次		5
福知山市指定文化財図録図版目次		
一、図版		
第一章 福知山の黎明と自然・景観		9
第二章 神々の姿		
第三章 山陰道丹波国・丹後国の平安仏		
第四章 大智寺の破損平安仏像群		
第五章 中世仏教美術の隆盛		
第六章 城下町の時代と山村の文化財		
第七章 近代化遺産の展開		
二、特別寄稿		
「仏教美術を中心とする福知山市の文化財」	同志社大学文学部教授 井上一稔	97
三、図版解説		107
付一、指定文化財一覧表および指定文化財点数一覧		129
付二、文化財基本用語解説		132

福知山市指定文化財図録図版目次

第一章 福知山の黎明と自然・景観（太古、古代）

1 夜久野町内採取化石 天然記念物 市指定

一括 夜久野町化石・郷土資料館

2 夜久野玄武岩柱状節理 天然記念物 府指定

3 稲荷神社のコウヨウザン 天然記念物 市指定

4 生野神社のケヤキ 天然記念物 市指定

5 多保市大池のマルバヤナギ 天然記念物 市指定

6 長安寺のイチヨウ 天然記念物 市指定

7 大歳神社のスギ 天然記念物 市指定

8 三嶽神社のケヤキ 天然記念物 市指定

9 三岳山のイタヤカエデ 天然記念物 市指定

10 三岳山のウラゲトチノキ 天然記念物 市指定

11 八幡神社のウラジロガシ 天然記念物 市指定

12 有徳神社のカツラ 天然記念物 市指定

13 六柱神社のカゴノキ 天然記念物 市指定

14 六柱神社のスダジイ 天然記念物 市指定

15 轟水満宮のモミ 天然記念物 市指定

16 柿本観音堂のタブノキ 天然記念物 市指定

17 井田共同墓地のシラカシ 天然記念物 市指定

18 オノ神のフジ 天然記念物 府指定

19 毛原の棚田景観 文化的景観 府選定

20 大原の産屋の里景観 文化的景観 府選定

第二章 神々の姿

1 長者森古墳 史跡 府指定

2 木造隨身像、木造男神像 彫刻 市指定

第三章 山陰道丹波国・丹後国の平安仏（平安時代）

1 木造釈迦如来坐像 彫刻 国指定

2 木造観音菩薩立像 彫刻 市指定

3 木造薬師如来坐像 彫刻 市指定

4 木造千手観音菩薩立像、不動明王立像、毘沙門天立像 彫刻 市指定

5 銅造天部立像 彫刻 市指定 羽白門所お堂

6 木造阿弥陀如来坐像 彫刻 市指定 常光寺

第四章 大智寺の破損平安仏像群（平安時代）

1 木造阿弥陀如来坐像 彫刻 市指定 大智寺

2 木造天部立像 彫刻 市指定 大智寺

3 破損木造仏像群 彫刻 市指定 十二軀 大智寺

第五章 中世仏教美術の隆盛（鎌倉、室町、南北朝時代）

1 宝篋印塔 建造物 市指定 野際共同墓地

2 宝篋印塔 建造物 市指定 龍源寺

3 宝篋印塔 建造物 市指定 長福寺

4 宝篋印塔 建造物 市指定 上川合日向

5 宝篋印塔 建造物 市指定 瑞林寺

6 宝篋印塔・六地藏石幢 建造物 市指定 喜代見神社

7 宝篋印塔 建造物 市指定 小倉塔の山

8 梵字塔 建造物 市指定 小倉

9 絹本着色種子金剛界大日如来像 絵画 市指定 観音寺（観音寺）

10 絹本着色薬師十二神將像 絵画 市指定 観音寺（観音寺）

11 絹本着色仏涅槃図 絵画 市指定 円満院

12 絹本着色釈迦十六善神像 絵画 市指定 円満院

13 絹本着色不動明王二童子像 絵画 市指定 円満院

14 絹本着色方便法身尊像 絵画 市指定 栗尾公会堂

15 絹本着色十一仏図 絵画 市指定 観音寺（南山）

16 絹本着色弘法大師像 絵画 市指定 観音寺（南山）

17 絹本着色桜花不動三尊像 絵画 市指定 観音寺（南山）

18 絹本着色虚空蔵菩薩像 絵画 市指定 観音寺（南山）

19 絹本着色孔雀明王像 絵画 市指定 観音寺（南山）

20 絹本着色清園寺縁起 附清園寺略縁起 絵画 府指定 清園寺

21 絹本着色弁財天像 絵画 市指定 個人

22	木造阿弥陀如来立像、観音菩薩立像、勢至菩薩立像	彫刻	市指定	三軀	瑞光寺
23	木造釈迦如来坐像	彫刻	市指定	一軀	清太院
24	木造千手観音菩薩立像	彫刻	市指定	一軀	山中観音堂
25	木造金剛力士像	彫刻	市指定	二軀	観音寺(南山)
26	木造阿弥陀如来坐像	彫刻	市指定	一軀	浄仙寺
27	木造阿弥陀如来立像	彫刻	市指定	一軀	浄仙寺
28	矢谷経塚出土遺物	考古資料	市指定	一括	福知山市
29	石造狛犬	工芸品	市指定	一对	熊野神社
30	懸仏	工芸品	府登録	六面	如来院
31	懸仏	工芸品	府登録	三二面、一軀	熊野神社
32	丹波室尾谷山観音寺略年代記	古文書	市指定	一冊	観音寺(南山)
33	丹州加佐郡河守之内南山分室谷寺御検地帖	古文書	市指定	一冊	観音寺(南山)
34	観音寺文書(寺領寄進状、安堵状他)	古文書	市指定	一冊	観音寺(南山)
35	丹後国加佐郡河守之内二又村御検地帳写	古文書	市指定	一七冊	観音寺(南山)
36	観音寺聖教文書類	典籍	府指定	一冊	個人
37	石原城跡	史跡	市指定	一基	洞玄寺
38	経ヶ端城跡	史跡	市指定	一基	上川合日後
6	徳本和尚利剣名号碑	建造物	市指定	一基	寺尾
5	瑞林寺山門	建造物	市重要	一棟	瑞林寺
4	大信寺山門	建造物	市指定	一棟	大信寺
3	高倉神社本殿	建造物	府登録	一棟	高倉神社
2	梅田神社本殿、撰社春日神社本殿、撰社西宮神社本殿・附棟札二枚	建造物	府登録	三棟	梅田神社
1	大原神社本殿、幣殿、拝殿、附棟札一枚、撰社火神社本殿、附覆屋、末社水門神社本殿、絵馬殿	建造物	府指定	六棟	大原神社
29	大原の産屋	有形民俗	府指定	一棟	大原
28	大原神社絵馬	有形民俗	市指定	三五点	大原神社
27	丹後二俣紙	無形民俗	府指定		田中製紙工業所
26	丹波の漆かき	無形民俗	府指定		丹波漆生産組合
25	額田のダシ行事	無形民俗	府登録・市指定		額田
24	大身のヤング踊	無形民俗	府登録・市指定		大身
23	備蓄銭・壺	考古資料	市指定	六二五枚、一口	個人
22	宗憲入道肖像画 附夜久家系譜	古文書	市指定	二点	個人
21	赤井忠家徳政令免状	古文書	市重要	一通	妙龍寺
20	辻区有文書	古文書	市指定	四五通	辻自治会
19	春日神社棟札	古文書	市指定	一冊	春日神社
18	丹波西国三十七所道中記版本	工芸品	市指定	四枚	常楽寺
17	梵鐘	工芸品	市重要	一口	醍醐寺
16	梵鐘	工芸品	市重要	一口	天寧寺
15	梵鐘	工芸品	市重要	一口	頼光寺
14	梵鐘	工芸品	市重要	一口	長安寺
13	神輿	工芸品	市指定	一基	十倉神社
12	紙本大江山鬼退治之図	絵画	市指定	七枚	鬼ヶ茶屋
11	絹本仏涅槃図	絵画	市指定	一幅	常光寺
10	紙本金地著色浜松図	絵画	市指定	一雙	浄仙寺
9	石造青面金剛像	彫刻	市重要	一軀	柿本観音堂
8	木造十一面観世音菩薩立像	彫刻	市指定	一軀	観音寺(南山)
7	近代遺産の展開	建造物	府指定	一棟	北有路
6	旧平野家住宅 附棟札一枚	建造物	府登録	一棟	内記
5	惇明小学校本館	建造物	国有形登録	三棟	六十内
4	桐村家住宅	建造物	国有形登録	一棟	下柳町
3	芦田家住宅	建造物	国有形登録	一棟	雲原
2	雲原砂防施設群	記念物	国登録	一群	



一、
函
版



ウミユリ

古生代ペルム(二畳)紀の化石



アンモナイト(ヤクノセラス・ヌカタエンゼ)



クモヒトデ



ミネトリゴネア・ヘギエンシス

中生代三畳紀の化石



ムラサキガイ、カガミガイ



新生代新第三紀の化石



ビカリア



クルミ



シリブビシ

新生代新第四紀の化石

1-1 夜久野町内採取化石(福知山市夜久野町化石・郷土資料館 天然記念物20)



木造千手観音菩薩立像

3-4 木造千手観音菩薩立像、不動明王立像、毘沙門天立像（柿本観音堂 彫刻23）



毘沙門天立像（柿本観音堂）



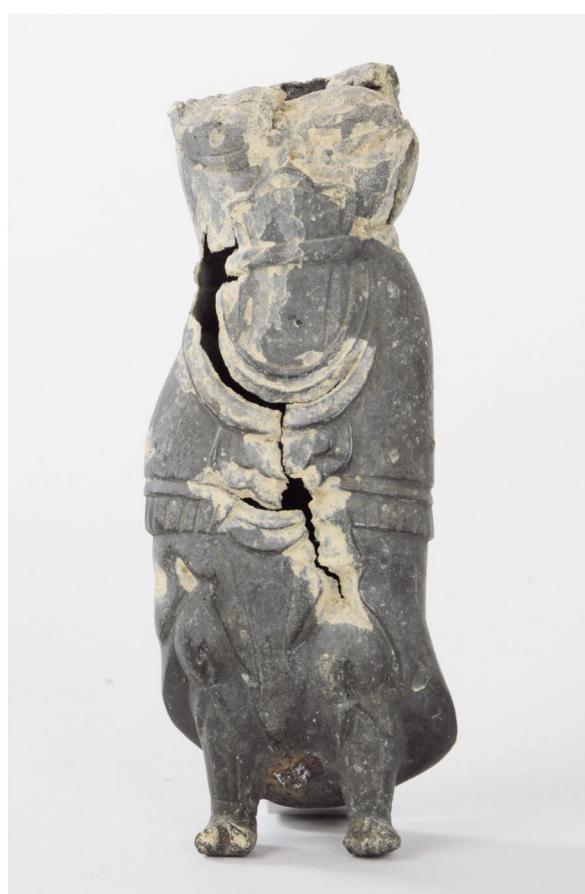
不動明王立像（柿本観音堂）



身部背面



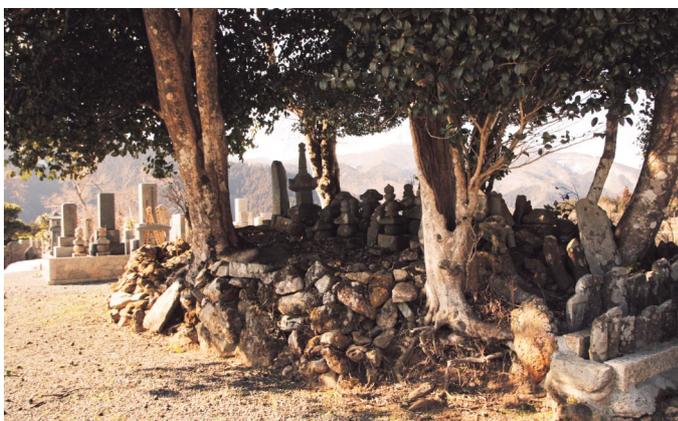
衣紋拡大



3-5 銅造天部立像（羽白門所お堂 彫刻31）



(ヲ) 仏形立像



共同墓地の塚状遺構



塚状遺構の中の宝篋印塔



5-1 宝篋印塔 (野際共同墓地 建造物34)



5-15 絹本著色十一仏図（観音寺〈南山〉 絵画23）



絹本著色虚空蔵菩薩像厨子入状態



5-18 絹本著色虚空蔵菩薩像 (観音寺〈南山〉 絵画26)

蔵王権現



阿弥陀如来



虚空蔵菩薩



5-30 懸仏（如来院 工艺品3）



薬師如来



釈迦如来



馬頭観音



1



33



2



6



7



8



9



10



11



12



13



14



本殿正面



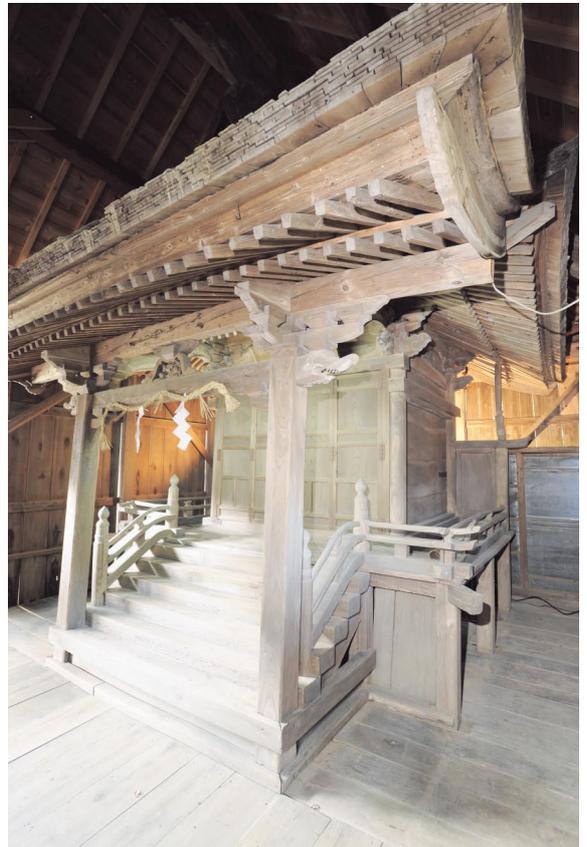
身舎組物



身舎隅木の様子



高倉神社全景（拝殿および覆屋）



本殿全景

6-3 高倉神社本殿（高倉神社 建造物10）



6-9 紙本金地著色浜松図（浄仙寺 絵画28）



一、勅命



三、三翁



二、出発

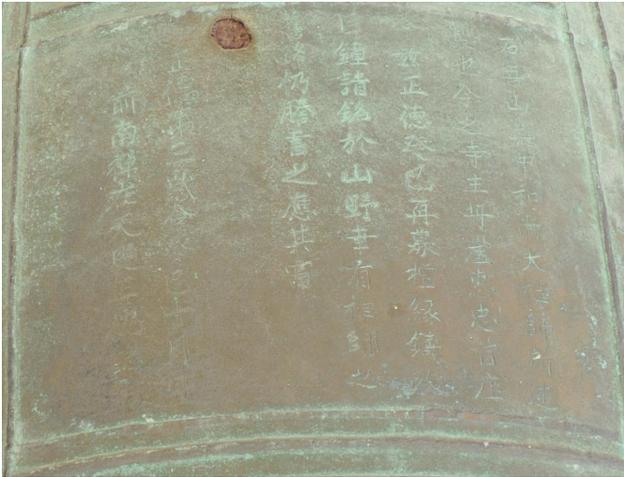


四、二瀬川

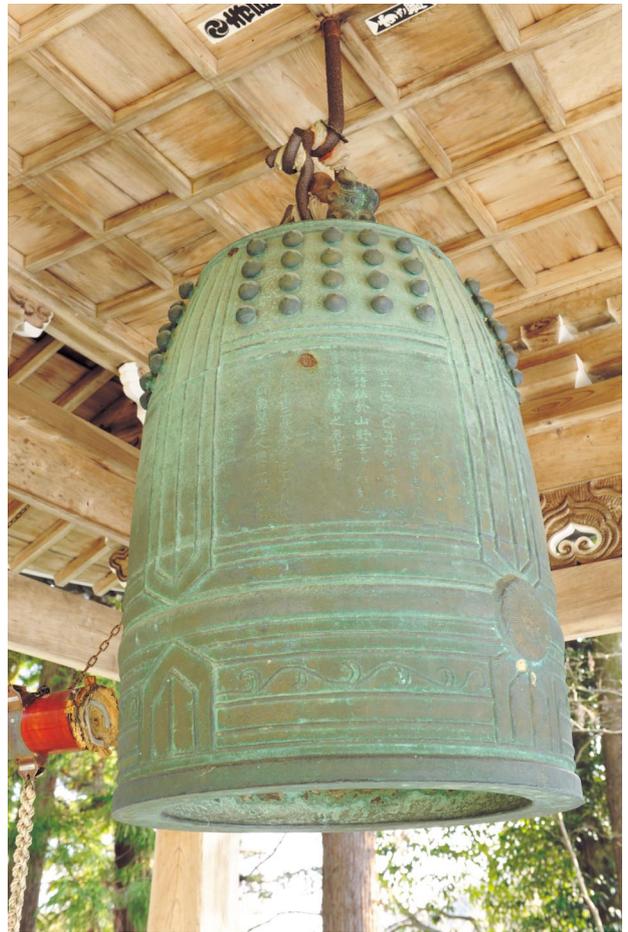
6-11 紙本大江山鬼退治ノ図 (鬼ヶ茶屋 絵画31)



6-12 神輿（十倉神社 工芸品9）



6-13 梵鐘（長安寺 工芸品16）



6-14 梵鐘（頼光寺 工芸品15）





6-15 梵鐘 (天寧寺 工芸品18)



6-16 梵鐘 (醍醐寺 工芸品17)





平野家住宅全景



2階 つづき間



2階 南西縁側

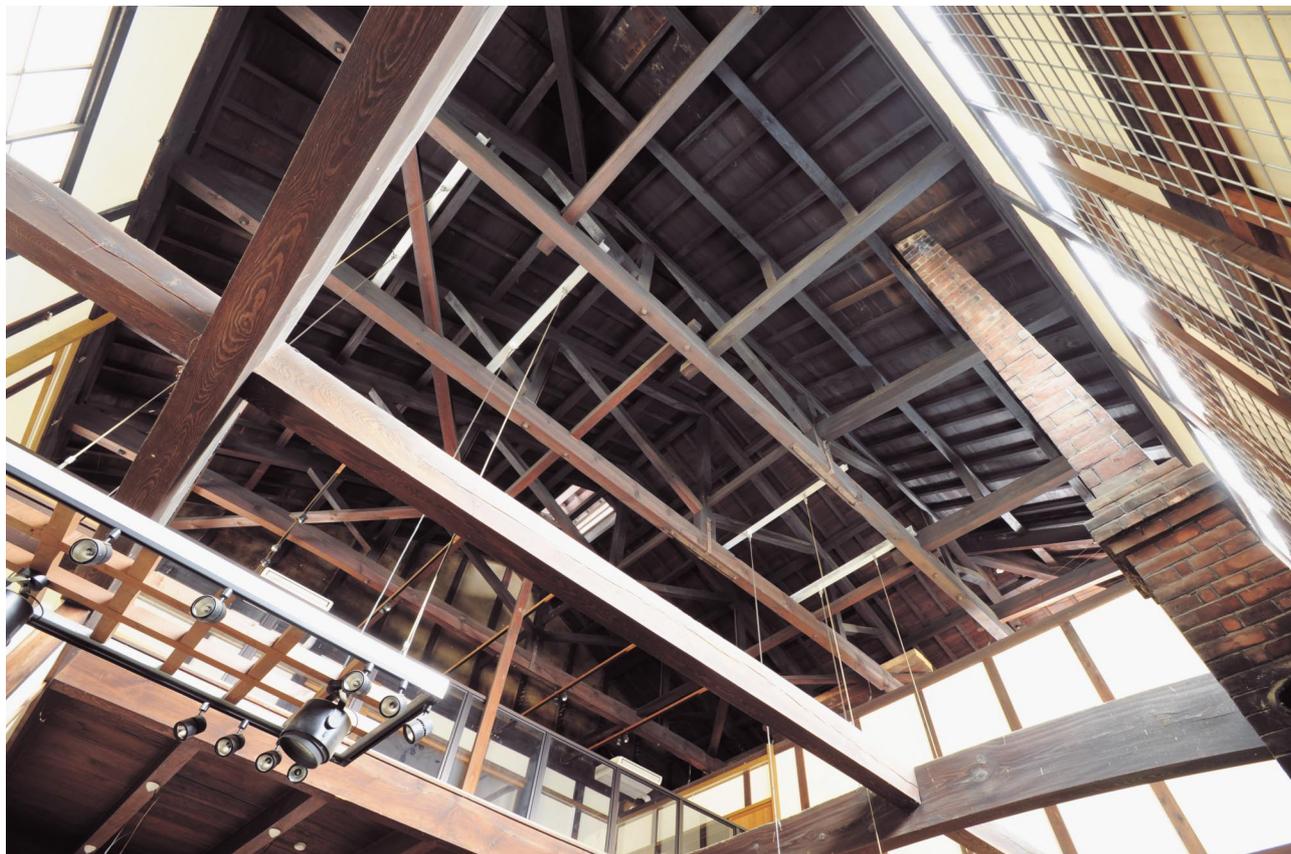


2階 茶室と水屋



中央階段

7-1 旧平野家住宅主屋 附棟札（北有路 建造物6）



キングポストトラス小屋組



1階 つづき間



1階 上座敷



1階 上座敷



南面全景

仏教美術を中心とする福知山市の文化財

同志社大学文学部教授
福知山市文化財保護審議会委員

井上一稔

はじめに

夜久野町・大江町・三和町と合併する以前の福知山市の文化財に関しては、すでに『文化財が語る福知山市の歴史』（福知山市教育委員会編 平成九年）として詳細な図録がつけられている。この書には鮮やかな写真の他、中野玄三氏による要を得た同名の文化財概論も掲載され、旧福知山市の文化財の歴史的な意義を理解する好書となっている。

このたび平成一八年の新しい福知山市の誕生に伴い、夜久野町・大江町・三和町の仏教美術を中心とした指定文化財の確認調査を依頼された。ここではその調査結果を中心として、また『文化財が語る福知山市の歴史』や各町史の成果を参照しながら、改めて福知山市の仏教美術を概観してみたい。

一、仏教美術のはじまり

福知山における仏教美術のはじまりとしては、白鳳寺院と考えられている和久寺廃寺（和久寺）と大江町の河守廃寺（大江町河守）が注目される。

特に和久寺廃寺は遺構の一部が明らかとなっており、現在の鹿島神社境内に据えられた礎石は塔婆の心礎ではないかと考えられている。また『広隆寺末寺帳』にみられる丹波国天田郡の「江林寺」にあたるのではないかとする意見がある（菱田哲郎「秦氏の寺とそのネットワーク」『街道の日本史三二 京都と京街道 京都・丹波・丹後』吉川弘文館 二〇〇二）。これより福知山市の仏教文化の始まりは、秦氏との関わりの中で捉えられるものかもしれない。

奈良時代の遺跡としては、多保市廃寺（六人部）がある。遺構は確認されていないが、ここから六人部小学校に移転したという礎石・須恵器片や布目瓦が出土している。

この時代の仏教美術に関しては伝世品の発見は難しく、新たな仏教関係遺跡の発見が期待される場所である。

二、神像

現在指定になっている福知山の神像は、府登録の佐々木神社（下佐々木）春日明神坐像、一宮神社（一の宮）男神坐像、そして三和町辻の梅田神社の隨身像・男神像（図版2-12）のみである。

これらの神像を時代順にみておこう。一の宮神社の男神像は、各所に豪快な彫り口を見せる本格的な一木彫像で、脚部も厚みを持ったしっかりとしたつくりを見せている。わが国の神像が平安後期以後に脚部を省略化してつくる傾向のあることを考慮すれば、本像はわが国の神像の中でも早い頃に位置し、制作期は十世紀を降らないものと考えられる。

これに続く神像は時代が開くが、佐々木神社像がくる。佐々木神社像は像底に墨書銘文があり、春日明神として南北朝時代の康永元年（一三四二）十一月に造られたことが判明する貴重な作例である。写実的な老相の面貌、全体にバランスのとれた姿など、鎌倉彫刻の伝統をひく作風を示している。

梅田神社の男神像（図版2-12下段）は、顔の肉付けがやや単調になり、袖口が厚ぼったくなるなどの点から、室町期の作例と考えられる。隨身像（図版2-12上段）は全体にまとまりのよさが表れる点から、江戸時代に入ってから造像と考えよう。

延喜式神名帳に天田郡では生野神社・庵我神社・天照玉命神社・荒木神社が記載されるように、当地方には古くより存在する多くの神社がみられ、そこに祀られる市指定以外の神像が存在すると予想される。既に未指定の古神像では、大明神社（中佐々木）や威光寺（下佐々木）にそれぞれ五躯の平安・鎌倉時代と考えられる神像が知られている。福知山の神像は、各時代にわたり造像されており、今後の調査研究の進展が期待される分野である。

三 古代仏像

丹波・丹後で九世紀に遡る仏像は少ない。宮津の金剛心院に優れた如来立像が伝わるが、他にこのような古像は稀であるなか、長安寺（奥野部）に薬師如来立像

崗岩製の基礎、塔身、笠石、相輪を備え、違和感のないプロポーションから一体の完存品と考えられる側面には格座間を設け、うち一面に「文和二癸巳（一三五三）十一月十六敬白 金時山 念仏一結衆中」の銘がある。

この宝篋印塔はその銘から現存する市内の宝篋印塔では最古なるものであり、丁寧な造り込みと完存品であることから同種資料の指標となるものである。

5-2 宝篋印塔（市指定 建造物）

一基 福知山市三和町菟原中 龍源寺

総高 九〇・〇cm（相輪含まず）、最大幅四三・一cm
室町時代

「石造宝篋印塔」。本堂の前庭中央にあり、基壇となる石の上に台石を積み、その上に近江式開花蓮文様を刻んだ基礎をのせている。花崗岩製で現存の相輪は別個体のものである。

5-3 宝篋印塔（市指定 建造物）

一基 福知山市三和町大身 長福寺

総高 一〇六・一cm、最大幅三一・五cm 室町時代

大身長福寺所有「石造宝篋印塔」。塔は裏山歴代住職墓地にあり、基礎から相輪まで完存している。総高は一〇六・一cm（基台含まず）、基礎には近隣でも珍しい中央飾り付の格狭間がみられる。

5-4 宝篋印塔（市指定 建造物）

一基 福知山市三和町上川合 上川合日向

総高 一〇九・九cm、最大幅三三・〇cm

上川合日向に所在する石造の宝篋印塔。所有者は現在のところ不明。基礎から相輪まで完存で、総高は一〇九・九cm、基台は石垣積みで組まれており、付近には宝篋印塔、

五輪塔の残欠が数基混在している。室町時代と推定される

5-5 宝篋印塔（市指定 建造物）

一基 福知山市夜久野町板生 瑞林寺

総高 一四三cm、最大幅四五・四cm

山上にあった瑞林寺が現在地に移された際、共に移されたものと伝える。花崗岩製の無銘塔であるが、塔身の角部と隅飾りの一部が欠失するもののほぼ完存品である。その形状より一四世紀中頃（鎌倉時代最末期）南北朝時代初期の制作と推定され、野際宝篋印塔とともに市内で最も古い石造文化財の一つである。

5-6 宝篋印塔・六地藏石幢（市指定 建造物）

各一基 福知山市夜久野町大油子 喜代見神社

宝篋印塔 総高 八六cm、最大幅四〇・二cm

六地藏石幢 総高 一二六cm 室町時代

大油子の喜代見神社一帯にあつたと伝えられる清海寺の唯一の遺品である。清海寺は「上夜久野村史」には応永三年（一三九六）の創建として「清海寺観行院に修験者が住して、その末裔が山本家と酒請藤家といい、今も山本家を観行と呼ぶ」と記載されているが、ならその根拠は明白でない。

宝篋印塔は玄武岩製で、現状では相輪、伏鉢部の一部を欠いている。近江式開花蓮華紋が刻む基礎には「応永元年甲戌（一三九四）十月日」と「勸進僧 快宥」の紀年銘が見られる。

六地藏石幢は、玄武岩を正六角形に成形した幢身の上部に船形光背型の窪みを掘り込み、蓮華座に立つ高さ一四cmの地藏菩薩像六体を掘り出している。銘文は残存していないが、先の宝篋印塔とほぼ同時期の室町時代初期の様式を示すものであろう。

5-7 宝篋印塔（市指定 建造物）

一基 福知山市夜久野町小倉 小倉自治会

総高 七五cm 室町時代

玄武岩公園の南に接する塔の山と呼ばれる丘の林中に、自然石を積み上げた塚があり、その上に現高七五cmの小さな塔が存する。玄武岩製で宝珠と請け花を欠失するが、完存に近い整った形状状態を伝える。

地元では、応仁の乱で東軍に属して夜久野合戦で討ち死にした内藤孫四郎の首塚と伝えられている

5-8 梵字塔（市指定 建造物）

一基 福知山市夜久野町小倉奥小倉 小倉自治会

総高 一三〇cm 江戸時代

安政四年（一八五七）の紀年銘を刻み、庵安養寺の門跡と記した碑にふさわしく、二体の仁王・金剛力士の名である「那羅延（ナラエン）金剛」「密迹（ミツシヤク）金剛」を表す為梵字を発音記号として用いており、全国的に見ても非常に珍しい。

5-9 絹本着色種子金剛界大日如来像（市指定 絵画）

一幅 福知山市宇観音寺 観音寺

絹本着色 切金 八〇・〇cm×五六・二cm 鎌倉時代

画面中央や上に蓮華台に載る大きな日輪を描き、日輪内に金剛界大日如来をあらわす種子を安置する。蓮華台は垂直にたてられた五拈杵の上端で支えられ、五拈杵の下端には反花座がある。珍しい種子大日像で、観想に用いられるものである。

5-10 絹本着色薬師十二神将像（市指定 絵画）

一幅 福知山市宇観音寺 観音寺

絹本着色 切金 一一五・八cm×五九・六cm 南北朝時代

画面上方の蓮華座上に、全身を覆う円光背と頭光を負い、右手は施無畏、左手は膝中央で掌上に薬壺を安んじ、結跏趺坐する薬師如来像を描く。薬師如来の下、蓮華座の左右に日輪を持つ日光菩薩、月輪を持つ月光菩薩が侍し、この三尊の左右に着甲（一軀は裸形）の十二神将を六軀づつ上下に配置する。薬師如来の左右と画面下端に湧雲を描く。

5-11 絹本着色仏涅槃図（市指定 絵画）

一幅 福知山市夜久野町小畑 円満院

絹本着色 一一六・七cm×九五・九cm 室町時代

沙羅双樹のもとで、釈迦は右腕を枕とし、紫檀塗りのみられる宝台の上で涅槃に入る様を表す。周囲には仏弟子・諸菩薩をはじめとして多数の禽獣までが集まり、嘆き悲しんでいる。沙羅双樹を天蓋のように描く点や、上空より麻耶夫人が飛来するのを小さく描く点は珍しい。江戸時代の享保三年（一七一八）に修理された際の軸木に、応永一二年（一四〇五）に表具をした旨の墨書がある。製作期は作風から考えて、この応永十二年に当てるのが適切と考えられようか。

5-12 絹本着色釈迦十六善神像（市指定 絵画）

一幅 福知山市夜久野町小畑 円満院

絹本着色 一一四・五cm×五七・八cm 南北朝時代

中央に釈迦如来坐像と獅子に乗る文殊菩薩・象に乗る普賢菩薩、手前に笈を背負って扨子と経巻をとる玄奘三蔵と赤身怒髪の深沙大将、左右には法涌菩薩と常諦菩薩および十六善神が描かれる。大般若会の本尊となる絵像で、大般若会は疫病や害虫払い、干ばつ除け、亡者の追善などのためにしばしば行われた。各尊の整った表現、中間色の多い鮮やかな色彩などから、南北朝時代の制作と考えられる。この種の絵像の優品として注目される。

5-13 絹本着色不動明王二童子像（市指定 絵画）

一幅 福知山市夜久野町小畑 円満院

絹本着色 九二・五cm×五四・四cm 南北朝時代

画面中央に瑟瑟座に坐す不動明王を描き、その左前に蓮華を捧げる矜羯羅童子、右に金剛杵を持つ制陀迦童子を配す。不動明王は、頭頂に蓮華を載せ、顔を右斜めに向け、両眼を開いて上歯で下唇を噛み、右手に剣、左手に索をもつ。二童子は共に坐像であることは極めて珍しい。火炎光背は九箇所迦楼羅の頭部が表される。

5-14 絹本着色方便法身尊像（市指定 絵画）

一幅 福知山市夜久野町直見栗尾 栗尾公会堂

絹本着色 六五・七cm×二八・四cm 室町時代（享祿四年一五三二）

連台上来迎印を結んで直立する阿弥陀如来像を描く。頭光は二重円相で、その中心から各三条の光棒を四方に表す。阿弥陀如来の肉身は朱線で描き金泥を塗り、衣部はその文様とともに切金線であらわす。光棒も切金線。方便法身は真宗で説く、一如を体とする法性法身から姿を現わしたものと阿彌陀仏をさす。

裏面に当初の裏打紙（四一・一×二五・一）が貼られ、大谷本願寺より享祿四年に下された旨の墨書銘がある。

5-15 絹本着色十一仏図（市指定 絵画）

一幅 福知山市大江町南山 観音寺

絹本着色 八六・七cm×三八・四cm 室町時代

上から釈迦三尊、大日三尊、阿弥陀三尊を並べ、最下段の左右に不動と地藏を配する、珍しい構成をみせる。大日如来は智拳印を結び、その左右は薬師如来と弥勒菩薩とみられる。切金文様などは硬直したものとなっているが、あまり例のない仏画として貴重である。

5-16 絹本着色弘法大師像（市指定 絵画）

一幅 福知山市大江町南山 観音寺

絹本着色 一一〇・〇cm×七七・二cm 室町時代

弘法大師が出釈迦寺奥院で観行をしていたとき、中岳の青松の上に釈迦如来が雲に乗って現れたという場面を描いた図で、このような絵像が、古くは普通寺三重塔に奉懸されていたことから、普通寺御影と呼ばれている。作例としては一五世紀半ばに増伴僧正によって描かれた個人蔵の作例が知られているが、本図は同じく室町時代の作例で、大師の顔がやや細面となっていることなどが特徴といえる。珍しい作品として注目される。

尚画面背面に、「弘法大師（源仁僧都画 南地院殿）平等如法所蔵」と墨書がある。平等如法は孔雀明王画像の裏書に見えた人物。源仁は八一八―八八七年の人で、東寺二長者となり、南池院を建立して成願寺と号し、池上僧都と呼ばれる。

5-17 絹本着色桜花不動三尊像（市指定 絵画）

一幅 福知山市大江町南山 観音寺

絹本着色 八五・五cm×三八・〇cm 室町時代

不動明王立像とその下方左右に矜羯羅童子・制多迦童子を描く不動三尊を中心として、画面の左上から滝を落とし、その先を水流として、画面右上と右下に龍を描く。また画面左下には桜の花を描いている。不動明王は、巻髪で沙髻上に蓮台を載せ、顔を左斜め下に向けて、右肩に剣を担ぎ、左手は垂下して羂索を執る。

保存状態としては不動明王は頭髪部を除いて補筆が入ることが惜しまれるが、矜羯羅童子が坐すこと、また滝・二龍、桜を描きこむことなど、特異な構成をとる作例として注目される。

思われる。

版木は、「大」三枚、「小」一枚からなり、「大」の版木には、表紙、本文、奥書が彫られ、版の片面には四ページが刻まれており、一枚につきこれが両面であるので、八ページ分になる。版木の収納容器は蓋と身からなり、蓋の表面には「丹波西国版木蓋版木三枚別二道中板壹枚都合四ツ」とあり、蓋の裏面にも「大切ニすべし 丹波西国版木箱蓋 菟原峠百観音堂蔵板入円通代再造」と墨書がある。また、身の内側・側面、外側底面にもそれぞれ墨書があり、大切に取扱い扱われていることがわかる。

6-19 春日神社棟札(市指定 古文書)

一冊 福知山市三和町高杉 春日神社 江戸時代
大永五年(一五三二)春日神社(高杉)の本殿再建に関わる棟札で、現在の本殿は一七世紀後半の再建と推定されている。それ以降かなりの補修が加わっていることから、棟札のみを古文書として単独で指定した。棟札としては、町内に残る最も古いもので、中世高杉は、菟原荘に属していたと思われる。棟札に出てくる紀氏は、細見谷に勢力をもった後の細見氏であることがわかる。材は杉、寸法は七六・二cm×七・八cm。
表裏に墨書。

(表)

大永五年乙酉

奉造立御社大永五年乙酉式月四日事始卯月三日造秘早大

工藤原藤右衛門尉祝西山左衛門

卯月十一日

(裏)

当社梅田大明神御宝殿依時剋破滅云々雖然矣紀山城守家
成爲大壇施主 敬白

西山左衛門成願人新奉造立所也依致子々孫々迄息災延命

之守護仰処意趣如斯

6-20 辻区有文書(市重要 古文書)

四五通 福知山市三和町辻 江戸時代(近代)
辻区に伝来の古文書群で、区長の引き継ぎ文書として現在も現用文書群とともに役帳筆筒ごと引き継がれている。近世文書と近代文書から近年の区長会の一件までが残っていて、四五点の近世、代文書他がある。
寛永二年(一六二五)の鴨庄との境界争論関係をはじめ、土地・林野関係の史料が大半をしめている。これらの文書群により中世の細見谷から近世村への展開を知ることができる。

6-21 赤井忠家徳政令免状(市指定 古文書)

一通 福知山市夜久野町額田 妙龍寺
妙龍寺に伝わる古文書群の中の一通。赤井忠家が酒屋和泉に、臨時で出される課役や徳政令を免除する、と伝えた文書。
妙龍寺が直接関係しているものではないが、当時の領主達が経済力を握る「酒屋」に対し、課役や徳政令を免除するなどの便宜を図って特別の結びつきを持っていたことを示している。

6-22 宗憲入道肖像画 附夜久家系譜(市指定 古文書)

一点 福知山市夜久野町高内 個人 江戸時代
夜久主計頭の長男である宗憲入道の肖像画である。夜久主計頭が戦国の頃、織田の但馬・丹波攻めに屈し、『但馬の磯部村大内へ退いた。その頃、主計頭には二人の男児があり兄・舎政(いえまさ)幼少時は彦助。』は成人後、高内に戻り、医を生業として、没する。
夜久家系譜は、文化一一年頃に書き写し、書き足しされ

た系図が二通作られた。そのうちの一通である。

6-23 備蓄銭・壺(市指定 考古資料)

六二二五枚、一口 福知山市三和町菟原下 個人 備蓄銭六二二五枚、壺一口
昭和四六年(一九七一)菟原下小字久保の林野から出土した。丹後郷土資料館の展示図録『南北朝時代の丹波・丹後』に紹介されており、総数六二四二枚、銭名の判読不明が三六〇九枚、判読されたもの二六三三枚のうち唐の開元通宝(六二二)から明の永樂通宝(二四〇八)にいたり、銭種三五種と報告されている。三和町郷土資料館で再調査を行った結果、現在保管の銭数は総計六二二五枚、判読不能三五九枚、年代は開元通宝(六二二)から皇宋元宝(一二五三)が下限の年代、銭種三一、銘種六六、六二二五枚の銭貨と容器一四・二cm×三・一・六cmの壺が指定である。

6-24 大身のヤンゴ踊(府登録・市指定 無形民俗)

福知山市三和町大身 広谷神社
ヤンゴ踊りは大身広谷神社の秋祭り、宵宮の祭事として保存されている。その名称は、曲のひと区切りごとに唱えられる「ヤンゴ」から出た名であり、その手順は次の通りである。笛一、ピンササラ三、太鼓一で構成する団楽衆が二組編成され、六番づつ、計一二番(閏年は一三番)をチョウノウヤで踊る。神殿で宮のトウから一組に笛、太鼓、ピンササラの順に楽器が授けられる。
チョウノウヤの幣に向かって田楽をはじめ。中心に笛が立ち、太鼓・ピンササラが円陣をつくり、左まわりに踊る。太鼓は両脇にはさむようにつけた締太鼓を、ややかがんで打ち、ササラは右下にかまえたササラを左足から一歩踏み出すとともに、目八分に捧げる動作をくりかえしてまわり、一まわりごとに、笛に向かって太鼓を打ち、ササラを摺りな

き、また、それ以後も産後三日三夜籠もる（一日一夜と変遷するも）習慣は、昭和三年（一九四八）ごろまで続いていた。

第七章 近代化遺産の展開

7-1 旧平野家住宅主屋 附棟札（府指定 建造物）

棟札 福知山市大江町字北有路 福知山市
桁行二・七m、梁行二・八m、二階建、入母屋造、正面玄関両脇及び東面、背面庇付、棧瓦葺、西面味噌蔵附属
桁行六・九m、梁行五・九m、棧瓦葺棟札一枚、祈禱札一枚、家相凶五枚。

建築年代明治四二年（一九〇九）「棟札、祈禱札」

平野家は、江戸時代のはじめに有路に移り住み、平野姓を名乗ったというが、その経緯は明らかではない。江戸時代には酒造業を営み田辺藩主牧野氏の御用達となって頭角を現し、苗字帯刀を許された。また、田辺藩にとって重要な由良川舟運の管理を任せられ、舟改めとして活躍し、幕末には製糸業にも手を抜けていた。現在の主屋は、明治四〇年由良川大水害の後の明治四二年（一九〇九）平野家第一二代吉左衛門のときに建築されたものである。

吉左衛門は、明治三年（一八九〇）には平野操機場を設立して輸向けの羽二重製織を行ない、明治三年（一九〇〇）には酒造業を廃し、平野銀行（後に京都銀行の前身銀行のひとつとなる）を設立し、金融業にも事業を拡大していった。事業のかたわら、明治一九年には加佐郡養蚕糸業組合の結成に尽力し、明治三年には自宅を開放して中等養蚕伝修所を開き、地域産業や人材の育成に努めた。敷地は大江町有路上の由良川左岸の山麓に位置する。屋敷前の国道から石段を二回あがった高台に敷地を構え、正面及び側面の一部に石垣を積み、背後は山の斜面につづく。正面に表門を開き、周囲に土塀や透塀を巡らす。敷地中程

に主屋が建ち、東に離れ座敷、西に味噌小屋を張り出す。主屋の東南側に露地門と土塀で区切った庭をつくる。敷地背面西寄りに土蔵を三棟並べるなど付属建物は多い。

主屋は入母屋造、棧瓦葺、本二階建ての建物で、南面して建つ。一階の間取りは、西側に通り土間を持ち、片側に居室を並べるといふ伝統的な民家の平面形式を基本にしたもので、縁側を矩折りに廻し、床や棚、書院を構えた座敷や続き座敷で構成され、正面には式台を構える。中央に仏間を配し、二階への階段は仏間横と北東隅に二か所設けられている。

二階は、階高を十分に取った本二階建てで、小星組は洋小屋（キングポストラス）としている。中央の階段を上ったところを板間のホールとし、その回りに七室を配する。一階同様、南・東側に矩折りに縁側を廻し、正面中央に一間一幅の床を備えた八畳の座敷、東側に床・棚を備えた八畳の続き座敷、北側には茶室と水屋を配する。

建築年代は、居室部小屋組真東に打ち付けてあった棟札及び祈禱札から明治四一年一〇月の着工、翌四二年三月二十九日に竣工したことが判明する。施主は棟札には平野家十一代当主吉左衛門とその父広泰、大工棟梁は舞鶴の迫田吉蔵と記されている。

当住宅主屋は、伝統的な民家形式を基本としながら多様な座敷構成をとり、一部に数寄屋の意匠や茶室を備え、洋小屋を採用するなど近代の和風建築としての要素も合わせ持つ。座敷廻りをはじめ全体に建築の質が高く、保存状態も良好である。さらに、棟札及び祈禱札が残り、建築年代、施主、大工をはじめとする職工等が判明し、家相図から屋敷と建物の変遷がわかる貴重な遺構である。

7-2 惇明小学校本館（国登録 建造物）

棟札 福知山市字内記 福知山市

木造／鉄骨造二階建、

建築規模 桁行四三・三m、梁行一八・四m

旧藩校「惇明館」にはじまる。明治六年七月惇明小学校創立。旧福知山城の城域にあたる地にあり、天守閣の西側、市役所、図書館、武道場など公共、文教施設が集まる地区に立地する。『惇明百年史』（昭和四八年七月一日発行）の記述によれば、昭和一〇年一月一五日に「建築上参考のため全校児童を講堂に集む六町長、助役建築技師視察す。」とあり、この頃新校舎の設計が行われていたと推測できる。昭和一二三年三月三日に本館の竣工式を行っている。

建物の現状は昭和六二年に大規模改修工事が行われ、外部では屋根改修、外壁塗装の吹き替え、内部では、床下地の補修や床・天井・壁の張り替え、改修が行われるとともに外部開口部のサッシをアルミサッシに変更している。しかし、間仕切りなどの変更や増築は行われておらず、建築当初の形態を良くとどめており、傷みも少ない。

建築の特徴は、南北四三・三八m、東西一八・四mの規模で一階が中廊下をもった平面形式で管理部門（校長室・職員室・医務室・作法室など）が設けられ二階を講堂としている。外観は昭和のモダン様式で東側中央に車寄せを張り出し、南北方向にシンメトリーの構成である。南北に各々階段室を配し、大小の丸窓をリズムカルに並べている。二階の講堂の東西に柱間ごとに縦長のガラス窓を大きくとっている。構造は木造を主体としながらも木造の柱を抱く形で鉄骨の組み立て柱を建て鉄骨の梁で二階床を支える。また、小屋組は鉄骨のトラスを組んでいる。この建物が竣工した昭和一二二年という年は、建築資材の統制令が出された時期であり、福知山における戦前最後の鉄骨建築と見ることもできよう。

惇明小学校本館は、昭和初期モダン様式で建てられた小学校建築として建築当初の形式をよくとどめており、地域

種別	番号	指定別	名 称	員数	所在地	管 理 者	登録年月日	備 考
無形民俗	1	府指定	丹波の漆かき		額田	丹波漆生産組合	H3.4.19	府指第21号
無形民俗	2	府指定	丹後二俣紙		二俣	丹後二俣紙保存会	H17.3.18	府指第 号
無形民俗	3	府登録	天座の田楽		天座	天座文化財保存会	S58.4.15	府登民第3号 H6.4.21市指定
無形民俗	4	府登録	御勝八幡宮紫宸殿田楽舞		上野条	上野条無形文化財保存会	S58.4.15	府登民第4号 S41.3.22市指定
無形民俗	5	府登録	牧一宮神社祭祀行事		牧	牧文化財保存会	S61.4.15	府登民第18号
無形民俗	6	府登録	榎原神社の練込		奥榎原	奥榎原自治会	H10.3.13	府登民第70号 H4.7.23市指定
無形民俗	7	府登録	大身のヤング踊		大身	大身ヤング踊保存会	S61.4.15	府登民第5号
無形民俗	8	府登録	額田のダン行事		額田	額田区代表自治会長	H2.4.17	H18.3.23市指定
無形民俗	9	市指定	福知山音頭と踊			福知山踊振興会	S41.3.22	府登民第50号
無形民俗	10	市指定	愛宕神社三岳練込太鼓		下野条	愛宕神社氏子中	S41.3.22	H18.3.23市指定
無形民俗	11	市指定	三嶽神社雨喜び三岳おろし		上佐々木	三嶽神社氏子中	S41.3.22	
無形民俗	12	市指定	森尾神社三岳練込太鼓		常願寺	森尾神社氏子中	S41.3.22	
無形民俗	13	市指定	天田踊		堀	堀区天田踊保存会	S41.3.22	
有形民俗	1	府指定	大原の産屋	1棟	大原	大原神社代表役員	S60.5.15	府指第11号
有形民俗	2	市指定	大原神社絵馬	35点	大原	大原神社代表役員	H15.2.10	
有形民俗	3	市重要	丹波生活衣及び関連品	2076点	内記	福知山市	H7.5.16	丹波生活衣館
天然記念物	1	府指定	夜久野玄武岩柱状節理		小倉	小倉生産森林組合	H17.3.18	
天然記念物	2	府指定	オノ神のフジ	1本	南有路	藤保存会	S58.4.15	
天然記念物	3	市指定	キマダラルリツバメ			福知山市	S40.6.25	
天然記念物	4	市指定	かごの木・むくの木	2本	池田	池田自治会	S45.3.2	
天然記念物	5	市指定	稲荷神社のコウヨウザン	1本	上野	上野自治会	H13.9.27	
天然記念物	6	市指定	生野神社のケヤキ	1本	三俣	生野神社	H13.9.27	
天然記念物	7	市指定	多保市大池のマルバヤナギ	1本	多保	多保市大池水利組合	H13.9.27	
天然記念物	8	市指定	長安寺のイチヨウ	1本	奥野部	長安寺	H13.9.27	
天然記念物	9	市指定	大歳神社のスギ	1対2本	口榎原	口榎原自治会	H13.9.27	
天然記念物	10	市指定	三嶽神社のケヤキ	1本	中佐々木	三嶽神社	H13.9.27	
天然記念物	11	市指定	三岳山のイタヤカエデ	1本	上佐々木	三嶽神社	H13.9.27	
天然記念物	12	市指定	三岳山のウラゲトチノキ	1本	上佐々木	三嶽神社	H13.9.27	
天然記念物	13	市指定	八幡神社のウラジロガシ	1本	雲原	八幡神社	H13.9.27	
天然記念物	14	市指定	有徳神社のカツラ	1組3本	天座	有徳神社	H13.9.27	
天然記念物	15	市指定	六柱神社のカゴノキ	1本	行積	行積自治会	H13.9.27	
天然記念物	16	市指定	六柱神社のスダジイ	1本	行積	行積自治会	H13.9.27	
天然記念物	17	市指定	轟水満宮のモミ	1本	菟原下	轟水道組合	H15.2.10	
天然記念物	18	市指定	柿本観音堂のタブノキ	1本	柿本	柿本自治会	H17.3.30	観音堂境内
天然記念物	19	市指定	井田共同墓地のシラカシ	1本	井田	井田自治会	H17.3.30	共同墓地内
天然記念物	20	市指定	夜久野町内採取化石	150点	平野	福知山市	H17.3.30	夜久野町化石・郷土資料館
環境保全	1	府環境	稲粒神社文化財環境保全地区		川北	稲粒神社代表役員	S60.5.15	
環境保全	2	府環境	一宮神社文化財環境保全地区		堀	一宮神社代表役員	H1.4.14	
環境保全	3	府環境	観音寺文化財環境保全地区		観音寺	観音寺代表役員	H10.3.13	
環境保全	4	府環境	大原神社文化財環境保全地区		大原	大原神社代表役員	S59.4.14	
環境保全	5	府環境	梅田神社文化財環境保全地区		辻	梅田神社代表役員	S61.4.15	
建造物	1	国登録	福知山市立神明小学校本館	1棟	内記	福知山市	H11.10.14	登録番号26-0050
建造物	2	国登録	芦田家住宅(旧片岡家別荘)主屋	1棟	下柳	個人	H12.12.4	登録番号26-0079
建造物	3	国登録	桐村家住宅主屋・別座敷・土蔵	3棟	六十内	個人	H14.8.21	登録番号26-0130~0132
遺 跡		国記念	雲原砂防関連施設群		雲原	京都府	H18.7.28	遺一、二
文化的景観	1	府選定	福知山市毛原の棚田景観		毛原	毛原自治会	H20.3.21	
文化的景観	2	府選定	福知山市大原の産屋の里景観		大原	大原自治会	H23.3.25	
ふるさと文化財の森		国設定	夜久野 丹波漆林		夜久野町	丹波漆生産組合	H21.3.31	設定番号第21号

福知山市内指定文化財点数一覧

区 分	総 数	建 造 物	絵 画	彫 刻	工 芸 品	書 籍	古 文 書	典 籍	無 形 民 俗	史 跡	天 然 記 念 物	環 境 保 全	有 形 民 俗	考 古 資 料	記 念 物
総 数	206	37	32	43	19	2	16	4	13	6	20	5	3	5	1
重 文	5	1	2	1										1	
国 登 録	4	3													1
府 指 定	26	5	5		2		4	2	2	2	2		1	1	
府 登 録	(13)	(4)		(1)	(2)				(6)						
府 決 定	5											5			
市 指 定	135	19	24	35	7	2	9	2	11	4	18		1	3	
市 重 要	31	9	1	7	10			3					1		

その他 京都府選定文化的景観 2
 国設定ふるさと文化財の森 1

切妻造 書物を半ば開いて伏せた形の屋根を持つ建物。

入母屋造 屋根の上部が切妻造で、下部が寄棟造りの屋根の建物。

寄棟造 四方向の勾配を持つ屋根を持つ建物。

本殿 神社の中心施設で、心霊の住まう場所。

拝殿 札押を行うために本殿の前に設ける場所。

幣殿 本殿と拝殿の間にあり、供物を供える場所。

覆屋 本殿等を保護するために覆う建物。

平入 屋根の一番高い所が、水平な棟に平行な面に入口がある建築

妻入 切妻造や入母屋造の側面の三角形の壁面に入出口を設けて、その部分を正面とする建築

流造 切妻造・平入にそりを付けて、前を延ばして向拝とする神社本殿。

春日造 切妻造・平入の正面に廂屋根を設ける神社本殿。

権現造 本殿と拝殿を前後に並べ、その間を直交する屋根でつなぐ神社建築様式。

破風 日本建築で屋根の切妻についている裝飾版。

向拝 社殿や仏堂の正面階段の上に張り出したひさしの部分。参拝者の礼拝する所。

身舎 日本建築で使われる空間名称、家屋の主となる部分。

摂社 本社に縁の深い神を祀っている神社。

末社 本社に付属する小さな神社。

宝篋印塔 供養塔・墓碑塔の一つ。名称は元々、宝篋印陀羅尼經を納めた塔であるところから由来する。

五輪塔 立方体や球形、三角形の五つの石材からなる塔。各々が仏教概念の「五大地・水・火・風・空」を表す。

石幢 六角又は八角の柱状の石塔。各面に仏像や仏塔を刻む。

格座間 仏壇や石塔の一部に彫られた特殊な裝飾。花頭状の図柄が多い。

棟札 建物の新築・修理などに際し、施主や工事関係者の名前と建築年月日や起請文などを墨書して棟木に打ちつける木札。

伽藍 寺院の建築物の呼び名。あるいは寺院の建物群を指す。

丸瓦 半円筒形の瓦。

平瓦 長方形で、横断面が弧状になる瓦。

本瓦葺 平瓦と丸瓦を交互に用いて葺いた屋根。

棧瓦 現在見る一般的な瓦の名称。丸瓦と平瓦が一体となった瓦、方形で中央部が膨らみ、波状になっている。

薬医門 城門の形式の一つ。切妻屋根に本柱と控え柱が前後に並び立つもの。

絹本著色 絹地に書かれた着色されている絵画又は書物。

紙本著色 紙地に書かれた着色されている絵画又は書物。

切金 蒔絵の裝飾技法の一つで、金銀の薄い延板を細かく切り、蒔絵の上に漆ではりつけたもの。

金泥 金粉を膠（にかわ）に混ぜて塗料としたもの。

表装 文書や絵画などに布または紙を貼って、巻物・掛物などを作り上げること。

坐像 座っている姿の像。立像：立っている姿の像。

如来 仏の尊称で、修行を完成し悟りを開いた人のこと。

菩薩 自ら悟りを求めるとともに、他の人々も悟りが開けるように修行する聖者のこと。

丈六仏 仏身（二丈六尺約四・八m）と同じ大きさで造られた仏像。坐像の場合は八尺（二・四m）もしくは九尺（二・七m）程の大きさになる。

懸仏 円板に神像・仏像を半肉彫りに鑄造したり線刻し、内陣などにかけて拝んだもの。

狛犬 神社の社殿の前などにおかれる守護獣の像。普通の狛犬と一角を持つ獅子の姿を持つ獅子の一对で造られる。

阿吽 寺院山門の仁王や狛犬などの顔相で一方は口を開き、他方は口を閉じるもの。

梵鐘 寺院でもちいる釣鐘の名称。

庚申会 庚申の夜、青面金剛や帝釈天を祀り寝ないで徹夜し、体の中にある三戸という虫が、天に昇って罪を告げるの防ぐ信仰。

庚申塔 道教思想に由来する庚申信仰に基づく石塔のことで、庚申講を三年一八回続けた記念に建立される。

青面金剛 中国の道教思想に由来し、日本の庚申信仰で独自に発展した尊像。

名号 仏・菩薩の名前や尊号のこと。

聖教 釈尊の説いた教えやそれを記した經典。



丹波なる

吹風かざりの山のもみじ葉は

散らぬ先より

ちるかこそおもう

和泉式部